

玉野市立東兎中学校

・生徒数 104名 ・学級数 4学級 ・教職員数 16名（平成26年9月15日現在）

○取組実践のキーワード

基礎的な知識・技能の習得

思考力・判断力・表現力等の育成

探究的な学習の展開

○標題（研究主題）

生徒一人一人の主体的な学習を育む授業づくり ～めあての把握・学び合い・振り返りを通して～

○取組を始めた経緯

全国学力・学習状況調査の結果を受け、それを機に生徒の基礎学力の定着とともに、思考力・判断力・表現力の育成のための研究推進体制の構築の必要性を強く認識し、授業研究を軸に取組を進めた。

○取組の実施体制

校長・教頭・研究主任（教務）を中心に、各教科担任も加わり、学力向上のための研究推進委員会を設置し、研究を進める体制とした。

○学力向上に向けた具体的な取組

- ・学期に1回、全員参加の研究授業を行う。
- ・教員が年間に1人1回の公開授業を実施する。（研究協議を行い、教員の授業力向上につなげる。）
- ・研究授業の中から、授業のユニバーサルデザイン化を進める。
- ・小学校・中学校の連携を強める。
 - 小中合同の授業研究会を年間3回行う。
 - 算数ボランティアや読み聞かせボランティアに中学生が出向く。
- ・他校の研究授業に積極的に参加する。
- ・習熟度別クラス編成を1年生の数学で実施する。
- ・放課後に希望者を募って数学の基礎学習を実施する。
- ・長期休業中に補充学習を行う。

○現在までの取組の成果と課題

1 成果

- ・全国や県の学力・学習状況調査の結果は良い。
- ・自己肯定感が高い傾向にある。
- ・普段の学習時間が2時間以上の生徒は増加傾向にある。
- ・生徒質問紙において、国語や数学の学習が、「好きである」「よく分かる」と回答した生徒の割合が高く、学習に対する前向きな姿勢がうかがえる。

2 課題

- ・授業の最後の振り返り活動を一層充実させるよう、授業構成を改善する。
- ・「人のために役立ちたい」「社会に貢献したい」などの気持ちを育て、将来、身に付けた学力を人や社会のために役立てることができるよう、長期的な展望を持って指導すること。

○取組の継続・発展の要因

教職員間で、導入の工夫、学び合い、振り返りなど、授業のユニバーサルデザイン化を一層進めたいと考えている。具体的には学習内容の焦点化、スモールステップでの明確な説明と課題提示、学習内容の理解を深めるためのグループ学習・個別支援、発展課題による深化などである。

○管理職・中核教員等のアクション

常に課題意識を持って授業改善に取り組むようにすると同時に、学習指導が、学力向上や理解を深めるだけにとどまらず、人間性の向上も含めて指導していく大切さを意識する。

○その他の資料・写真等



小学校・中学校の合同授業研究



東児中の校内研究授業(国語のグループ学習)